



NPO 法人流山市国際交流協会
NAGAREYAMA INTERNATIONAL FRIENDSHIP ASSOCIATION

NIFANEWS

発行: NPO 法人 流山市国際交流協会
〒270-0111 流山市江戸川台東 1-4 3F
国際理解サポートセンター内
☎: 04-7128-6007 (月・水・金)
Email:nifa-support@bz04.plala.or.jp
http://nifa-home.sakura.ne.jp/

このページは、やさしいにほんごをつかっています

やさしい
にほんご

市民活動
フェスタに
出店

世界の飲み物と英語のおみくじで 人の輪をつなげました

10月26日 流山市総合運動公園



10月は季節の変わる時です、イベントの当日は、雲が多く、冷たい雨が降りました。日本の秋を感じる『秋の長雨』の朝でした。店の名前は《ほっと一息交流ブース》です。イベントに来た人々が「ピクニック広場」で遊んだあと、乾いた喉を潤すことが出来るように、飲み物を3種類、用意しました。「①台湾ミルクティー」・「②モヒート/キューバ」・「③バレンシアのオレンジジュース/スペイン」です。

イベントが始まる時間に準備はしっかりとできました。しかし、空はくもり、ときどき、急に強い雨がふっています。イベント会場はスタッフだけです。準備した店は必要ないのか？そんな気持ちになります。

でも、しばらくすると雨はやみました。セントラルパーク駅に到着した電車から、イベント会場にたくさん的人が来ます。会場はとても賑やかです。《ほっと一息交流ブース》にも人がたくさん集まりました。スタッフは「店への案内」・「飲み物つくり」で忙しくなります。お店はとても賑やかになりました。

今回、お店には「日本の占い」「おみくじ」を用意しました。「大吉」が出ると、ベルを鳴らします。飲み物を「ひとつサービス」です。ときどき出る「大吉のベルの音」で、みんな元気がでます。イベントがスタートして、しばらくすると、アティティ・サイニさん（インド）、上村エレナさん（ラトビア）、マウリさん（インドネシア）が店の応援に来てくれました。とても頼りになります。お店の前で人を案内したり、英語で書いた「おみくじ」を読んでもらいました。英語と日本語の両方で“おしゃべり”してもらいました。とても国際的な空間（ばしょ）となりました。

イベントには、たくさん的人がきました。みんな笑顔です。みんな仲良くなりました。朝は天気が悪かった為、用意したパネルは置くことが出来ませんでした。

お店の飾りは万国旗だけでした。たくさん用意した飲み物は残るのでは？など、たくさん心配をしていました。ですが、イベントが終わると、そんな心配をする事は不要でした。素晴らしい一日になりました。

NIFAの会員みなさんの協力で準備が進み、開催できました。とても良いイベントでした。冬の始まりを感じた、少し寒い一日でしたが、国際交流が行われた、この場所は心と心が交わり、とても温かい一日となりました。

（やさしいにほんご訳:中野明さん 外国語支援事業部）



My Memorable Home

ながれやま だいに み
流れ山に第二のふるさとを見つけて

しゅっしん にほんごこうざじぎょうぶ
ブ・ス・ハさん (ベトナム出身 日本語講座事業部)

ひ こ いらい わたし かぞく まいゆう おと
流れ山に引っ越してきて以来、私の家族は毎夕のチャイムの音に
いつも心を惹かれています。何をしても、その音が聞こえると
手を止めて耳を傾けます。特に2歳の娘は、楽しそうにメロディー
に合わせて口ずさみます。その音色を聞くと、私は子どものころを
過ごした故郷タイグエンを思い出します。タイグエンでは、工場のチャイムが毎日決まった時間に鳴り、生活のリズムを知らせてくれました。

ほくとうぶ さんかくちたい しょう しゅと くるま やく じかん ばしょ しせん ゆた
タイグエンは、ベトナム北東部の山岳地帯にある省で、首都ハノイから車で約1時間の場所にあります。自然が豊かで、人々は穏やかで親しみやすい地域です。

なか ちゃばたけ ひろ ふうけい だいひょう ちゃ さいしょ すぐ しぶ
中でも、タン・クオンのお茶畑が広がる風景はタイグエンを代表するものです。タン・クオン茶は、最初は少し渋
みがありますが、喉の奥に深い甘みが残る味わいが特徴です。日本の茶道が静けさや禅の心を重んじるのに対し、ベ
トナムの茶文化は「お茶を飲みながら語り合う」温かく親しみやすいものです。また、朝の市場では売り声や値段交
渉の声が響き、人々の交流やつながりを感じることができます。

いま しあわ ゆうがた かこ げんざい
今、私は流れ山で「第二のふるさと」を見つけたことを幸せに感じています。夕方のチャイムは、過去と現在をつな
ぐ大切な音です。娘はこの地域の温かい人々に囲まれながら成長しています。

あたら ささ みな とく こころ かんしゃもう あ
新しい生活を支えてくださっているNIFAの皆さん、特にやすえさんに心より感謝申し上げます。

にほんぶん えいぶん
(日本文、英文ともブ・ス・ハさん)



浅草に融けあっている和服姿



右がブ・ス・ハさん、左が夫君のファン・バオ・ソンさん、真ん中は愛娘



My Memorable Home

Finding My Second Hometown in Nagareyama

Ms. Vu Thu Ha, Vietnam

Since moving to Nagareyama, my family has always been drawn to the sound of the evening chime. No matter what we are doing, we stop to listen. My two-year-old daughter especially enjoys humming along with the melody. Each time I hear the chime, I am reminded of my hometown, Thai Nguyen, where factory bells rang at set times every day, marking the rhythm of daily life.



お茶を注ぎ、心を分かち合う～温かくてほっとする時間～

Thai Nguyen is a mountainous province in northeastern Vietnam, about an hour's drive from the capital, Hanoi. It is a place blessed with beautiful nature and kind, gentle people.

One of the most symbolic sights of Thai Nguyen is the vast Tan Cuong tea hills. Tan Cuong tea has a distinctive flavor — slightly bitter at first, but leaving a deep sweetness at the back of the throat. While Japanese tea culture values quietness and meditation, Vietnamese tea culture is more about warmth and connection — people enjoy chatting and laughing together over a cup of tea. I also fondly remember the lively morning markets filled with the sounds of vendors calling out and customers bargaining — a place of both trade and community.

Now, even though I am far from my hometown, I feel fortunate to have found my "second hometown" here in Nagareyama. The evening chime connects my past and present, while my daughter grows up surrounded by kindness and a strong sense of community.

I would like to express my heartfelt gratitude to everyone at NIFA, especially Yasue-san, for their constant support in helping us settle into our new life in Nagareyama.



朝市の様子



タン・クオンの茶畠

たぶんかきょうせい タブマネ（多文化共生マネージャー）は語る かた キム スクハ がいこくごしえんじぎょうぶ 金 淑花さん（外国語支援事業部）



ひび かつどう ね
日々の「共生」への活動が、いざというときの根っこ
～コロナ禍での活動で得た思い～



今は平穏な日々に戻っていますが、暑さの中で忘れていた新型コロナがまた流行り出しています。5年前の2020年から始まった新型コロナの時に、皆さんはどうな生活をしていましたか？思い出してみると、日常生活は制限され、学校は休みになり、職場は在宅勤務になりました、仕事を失う人も多くいました。その上緊急事態宣言が出され、行動範囲が狭まり、気軽に友達に会うことや離れている家族に会うことも躊躇する時期もありました。すべてが初めて経験すること、よくわからない新型コロナの予防接種のために調べたり、予約したりで落ち着かない日々を過ごしていたと思います。

万が一、皆さんが外国に旅行中や長い時間滞在しているときだったらどうでしょうか？飛行機が飛ばなくなり、日本へ帰国できなくなったと思うだけで、不安やストレスを感じる人も多いのではないかでしょうか。

まさに、それが日本に住んでいる外国人達の当時の状況でした。言葉が通じずに情報が得られない、新型コロナにかかっても病院に行けない、仕事がなくなり、ビザが切れてもどこで誰に相談すればいいのか分からない状況でした。それでも、このような外国人達にやさしい日本語や多言語で新型コロナの情報を発信し、多くの外国人に伝えようとしている人達多くいました。

その一つ、広島県安芸高田市は、外国人達に新型コロナワクチンの接種を受けてもらえるよう、多言語で接種の予約や、受けられる場所などの案内をしました。非接触の時期でもあり、私は、遠く離れている流山市にいながら韓国語の翻訳を担当しました。積極的に動く行政の姿勢に感心しました。

さらに、非対面の時期にもかかわらず、群馬県渋川市は外国人住民の防災訓練を行いました。その時に多文化共生マネージャーとして「自分と家族の命を守ろう！」の講演会の講師を務めました。新型コロナウイルスの中で感染対策をしながら開催した渋川市は、在住の外国人向けに、防災意識の啓発と避難所を想定した訓練を実施しました。災害は待ってくれないもの、備えておかなければならぬからです。

「パンデミック中に自然災害が発生したらどうするか？」について考えるきっかけにもなりました。自然災害が発生したとき、「密」を避けて感染リスクに備えながら、一方では、文化や宗教、価値観などが違う外国人に寄り添って、支援を届けるよう配慮が必要であることを認識しました。



災害の時だけではなく、普段の生活でも外国人達が日本の生活に慣れるように、彼らの意見も入れながら、情報を発信することは重要です。住みやすい街づくりは、多様な文化の中でお互いに前向きな関係を作り、安心・安全な環境づくりから始まると思います。(8月20日)





ひと

えどがわだい

きょうしつ

こうし

なまえ けいしょりやく

名前の敬称略

きぼう おう たよう

日本語講座事業部の江戸川台教室では、オンライン、土日、夜間、複数人など、学びたい人の希望に応じて多様な形で授業を行っています。日々の暮らしに役立つ内容や、学ぶ人の希望も取り入れて授業を行っています。

安江 裕子(やすえひろこ)

○講師歴：2022年7月からなので3年2ヶ月です。今まで担当した生徒さんは短期を含めて、アメリカ、バングラデシュ、ネパール、インドネシア、コロンビア、中国です。

講師のほかに、日本語講座江戸川台教室コーディネーターをしています。

2022年5月から現在までに面談して成立した受講生は68名です。

○テニス、書道、運動することが好きです。そして年齢関係なくやりたいことはチャレンジすることをモットーにしています。



小林 美恵子(こばやしみえこ)

○講師歴：2018年2月から

アシスタントから始めました。○子育て終了後、通信制大学で日本語教員養成コース卒業、世界の方々とふれあい、互いの国を知る喜び。

○趣味：古典文学かな書道

秋葉 雅樹(あきばまさき)

○高校英語教師をしています。

○趣味はドローン空撮と動画編集です。

○現在はパキスタンの生徒を担当しています。



小原 茉実(おばらまみ)

○講師歴：9ヶ月
ONIFAの日本語ボランティアを通して日本語の奥深さや相手にわかりやすく教える難しさを日々感じています。



古瀬 順子(ふるせじゅんこ)

○講師歴：4ヶ月
○講師を始めたばかりで勉強中です。日本語を学ぶ生徒さんの熱心な姿勢に刺激をもらっています。



唐崎 好彦(からさきよしひこ)

○講師歴：6ヶ月（25年4月～）
ONIFAには2020年に入会しました。好きなこと：鉄道（乗り鉄、撮り鉄他）、スポーツ観戦。初心者なので、毎回試行錯誤しています。

杉内 典子(すぎうちのりこ)

○講師歴：6ヶ月
○趣味はマラソンとエッセイを書くこと。特技は手話。日本語を楽しく学べる場になるよう頑張ります。



後列左から：小林美恵子、安江裕子、澤宮真知男、小原茉実、古瀬順子、唐崎好彦、杉内典子

前列（座っている人）左から：今川裕子、岸本康子、宮澤京子、中野明

今川 裕子(いまがわひろこ)

○講師歴：6ヶ月
○私は専業主婦です。今は鈴虫の飼育とNIFAでの勉強が楽しく、役に立つ支援を心掛けて充実した毎日を過ごしています。

中橋 義尚(なかはしよしなお)

○講師歴：4年
○2021年に我孫子市国際交流協会主催の「日本語教え方講座」を終了しその後4年間に9人の受講生を担当いたしました。

自分としては、日本語を教えるということよりも日本、および日本文化を理解してもらうことを大事にして活動を行っておりま



岸本 康子(きしもとやすこ)

○講師歴：5ヶ月
○身近な話題から、日本語や文化に親しんでいただけるよう努めています。私自身も日々勉強中です。趣味はヨガと英会話です。

小宮 陽一(こみやよういち)

○講師歴：5年
○我孫子市国際交流協会での研修の後、流山北高・おおたかの森高で日本語を母語としない生徒を教えています。



上記以外の講師

桑田加奈江
(くわたかなえ)

羽中田彩記子
(はながたさきこ)

河又厚子
(かわまたあつこ)

渡辺まゆみ
(わたなべまゆみ)

中野明※
(なかのあきら)

澤宮真知男※
(さわみやまちお)

※集合写真には掲載

遠藤 知枝子(えんどうちえこ)

○講師歴：2年6ヶ月
○趣味：スポーツジム、旅行、ピアノ、書道、英会話
○受講者が真面目で意欲的にレッスンに取り組んでおり、教える方としても非常にやりがいを感じています。

ホームステイ・イベント事業部が「ホームビジット」を実施

日本の家庭生活を味わいました

ホームステイ・イベント事業部では7月26日～8月3日、「ホームビジット」を行いました。会員の5家庭に、朋友日本語学院(柏市)で学ぶ学生13名(ベトナム10名、ネパール2名、中国1名)を1～3名ずつ日帰りで受け入れ、日本の家庭生活を味わってもらいました。

そのうちのお一人、グエン・ゴック・スアン・クイさん(ベトナム出身)の感想文を、以下に紹介します。



私は日本に来たとき、この国の方がよく分かりませんでした。でも、ホームビジットの活動で、日本の人々の温かさを感じることができました。

私はひらしまさんといとうさんに会いました。ひらしまさんは駅まで私とガソさんを迎えに来て、一緒に家まで連れて行ってくれました。家に着くと、お茶と八ツ橋を出してくくれて、とてもおいしかったです。

その後、晩ご飯にしゃぶしゃぶといなり寿司を作ってくれました。新鮮な野菜とお肉を鍋に入れて、タレについて食べました。味はあっさりしていて、とてもおいしかったです。食事をしながら、私たちは生活について話しました。

食事のあと、いとうさんがかき氷機を持ってきて、一つ一つ作ってくれました。好きなシロップを選んでかけて食べることができ、とても楽しかったです。その後、ひらしまさんは卵タルトとケーキを出してくれました。とてもきれいで、おいしかったです。デザートを食べながら、もっとたくさん話をして、お互いの生活をよく知ることができました。

それから、二人はお土産にせんべいとおにぎりをくれました。いとうさんは忙しくて帰りましたが、ひらしまさんは私たちを文化会館まで連れて行ってくれて、お盆の踊りを習いました。踊りはとても優しくて、私たちを温かく迎えてくれました。

こうした私たちのホームビジットは温かくて、幸せな時間になりました。そして、「次はベトナム料理を作り、二人に食べもらいたいです」と約束しました。本当に楽しい体験でした。先生たちと、この活動を準備してくれた皆さんに感謝します。(原文のまま)

ながれやまちゅうおう
流山中央ロータリークラブで卓話

「UNITE for Good」はNIFAと一緒に

NIFA会長 西山 勝



NIFAは、中央ロータリークラブの定例会で卓話の機会をいただきました。恐らく初めてです。

NIFAは1991年5月に、市内の産業、観光、教育など幅広い分野の団体が発起人となり、設立されました。中でも流山商工会議所、流山市観光協会、流山ロータリークラブと共に、流山中央ロータリークラブには今日に至るまで法人の正会員として理事に就任していただいている。

例会は、会長が鳴らす鐘の音で始まります。ロータリークラブの歌の斉唱、前回の例会以降の各役員の活動、行動の報告、誕生日祝いなど定例のプログラムで進みます。卓話は例会の中心、毎回多方面の方が講演をされています。

この日は、私の自己紹介、55年前に移住した当時の流山の街の様子、NIFA誕生に際しての関係各位のご尽力、委託事業を含む活動の紹介、抱えている課題などをお話ししました。また会場正面に掲げられていた標語「UNITE for Good」は、NIFAの方向とも全く一致するものと感じました。

当日参加された皆様には熱心にお聞きいただきましたし、大変温かく迎えていただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。NIFAは法人会員の皆様をはじめ、市内の多くの皆様の中にあることを感じました。

「共生」、言葉や文化の違いの向こうにある大切なものの ～NIFAの外国出身会員 日本での経験、感想を語る～



7月18日～



趙亮さん



アパルセロ・ミゲルさん

千葉県生涯大学校の東葛飾学園で、NIFAの外国出身会員が日本の暮らしで得た印象、感想などを講演する機会を得ました。同大学校の「千葉ふるさとづくりコース」2年次の方の授業です。(当日は70名の方が参加)

講演したのは、趙亮(ちょうりょう)さん(中国出身)とアパルセロ・ミゲル(Aparcelo Miguel)さん(ベネズエラ出身)日本語講座事業部の所属。テーマは、「異文化理解について学ぶ～外国人から見た日本の異文化～」です。

最初は趙亮さん。趙さんは、米国に6年住んだ後、2年前に流山に移住。治安のよさ、交通機関の便利さ、生活インフラの質の高さの一方、外国人が家を借りたり、銀行口座を持つ難しさ、日本語の背後ににある意味を理解する困難さなどを挙げていました。最後に、「文化の違いを持った人が共存するにはコミュニケーションが大切、外国人への理解と寛容な心で接してほしい」と結びました。

次に登壇したのはアパルセロ・ミゲルさん。日本に住んで6年になります。ミゲルさんは、日本語の還回しの言い方、沈黙、あいまい表現に戸惑いを感じたり、日々の生活

の中での規則に柔軟さが欠けると感じた一方、尊敬、やさしさ、誠実さが日本の社会によく表れている、と体験を交えて紹介されました。「日本ではよいこと、役立つこと、便利さがたくさんあり、よくないことは最小限に抑えられると思う」と結びました。

この後、授業の参加者はグループごとに事例の検討会。アルバイト先での異国人同士の教え合い、ホームステイ先での入浴習慣の違い、外国出身者の自治会への入会などの事例をテーマに、議論と発表を行いました。

この講演は、同大学校で非常勤講師をしている内藤茂昭さん(外国語支援事業部長)の仲立ちで実現しました。また講演前の準備では、日本語担当講師の谷田健美さん、馬場尚子さんにも原稿の手助けをしていただきました。

昨今、外国出身者を規制したり、排除につながりかねないような動き、風潮が目につきます。こうした中で、大勢の皆様と「多文化共生」の大切さを考え、とてもよい機会になりました。



谷田さん 内藤さん

日々の暮らしを英語でコミュニケーションできるよう

～「英会話入門C」講座紹介

10月9日～



木曜日の「英会話入門」講座は、昨年9月から新たにブラジミール・ヴァルガス講師(ホンジュラス出身)を迎える、新しい授業を行っています。

この日はヒアリングから始まり。講師の友人が来日し、ロンドンやニューヨークに比べて街がきれいで、大都会なのに静かな様子に感嘆したという感想を話してくれました。続いて、この1週間の出来事などを順に話す時間。日本の2人のノーベル賞受賞者と同年なので自分も頑張りたい、日本橋界隈に出かけた、家族誕生日祝いをした、小学校の敬老のイベントを楽しんだなどの話を披露。講師は都度、質問や関連する話で会話をつなげます。

後半は、配られたテキストを使って、読み、その内容の理解、語彙(ごい)の理解、疑問文への短文回答の練習です。設問の「A place you would like to visit in

the future」に対して、「A place I would like to visit is Heaven」との答えに大爆笑が起こります。

授業中に日本語は聞こえません。講師が割合ゆっくり話してくれる英語は、聞き取りやすいです。多くの皆さんは、正しいセンテンスで話そうと心がけているようです。「入門」と名はついていますが、内容や進め方は「初級」の印象です。

全体に落ち着いた、大人の学びの雰囲気いっぱいのクラスです。



ブラジミール・ヴァルガスさん



みんなき後れせず、きれいな発音で話します

～ キッズ英語イベント「わくわく！冷たいドリンクと英会話レッスン」～



平さん



カミーユさん



英語を普段着のように

～もう1つのキッズ英語の始まり～

文化講座事業部の運営で、10月から毎週日曜日に英語のレッスンを始めました。未就学児と小学校の低学年向けの2クラス。水曜日の平恵理子講師のクラスに次いで2つ目の講座。ネイティブ講師による、「英語であそぼう」のクラスです。講師はショーン・ジョンソン(Sean Johnson)さん(カナダ出身)。この日は体験レッスンの「ハロウィーンパーティー」。壁やボードにも飾りつけ、ちょっぴり雰囲気作りをします。

レッスンは「What's your name?」に対し、「My name is ○○」のパターン練習から始まり。単語の絵カードクイズでは、「Pumpkin」「Witch」「Bat」などの言葉を覚えたり、「Square」「Triangle」「Circle」等のShapeを部屋の中から探したり、各自に配られた色紙片でモンスター作りをして、最後はBingoで締めくくり。どれもハロウィーン

で出てくる動物の名前を覚えたり、みんなで発音練習の歌を歌ったりとプログラムは多彩。中学生はreadingや講師とのQ&Aを披露してくれました。

この日はいつものレッスンに参加している児童・生徒が約15名参加。昨年から始めた「キッズ英語」もNIFAの講座として定着しつつあるようです。子供たちも講師と気後れせずに話す様子が印象に残ります。ここで過ごした子どもたちが将来どのように羽ばたいていくのか、楽しみです。



に因んだ単語、11人の子供たちが、講師の明るく、テンポのよいレッスンに、動と静のある1時間楽しめました。

毎週日曜日に教室を訪ねてくる子供たちが増えることを楽しめています。



(10月12日)



11月9日(日)、久しぶりの大雪となった朝の流山市の街は、ロードレースでにぎわい、文化会館の中は歌声であふれています。

雨と月と舟歌のハーモニー

～流山市合唱祭に参加～

した。この日は、文化講座事業部の「ワールドハーモニー」が出演する「流山市合唱祭」。朝一番のリハーサルから始まり、まる一日をかけて舞台に臨みました。今回お届けした一曲目は、アメリカ民謡「コロラドの月」。

遠く離れた恋人を想う切ない気持ちを、コロラド川に映る月明かりに重ねた、美しくどこか懐かしい恋の歌です。

80歳代のメンバーの一人は、「この年齢になっても胸がきゅんとする曲を歌える

のは本当に嬉しいこと。歌うたびに若いころの気持ちを思い出します」と語ってくれました。

もう一曲「ゴンドリ・ゴンドラ」は、ベネチアの舟歌です。今年はこの曲に取り組むため、イタリア人の先生から発音や表現のレッスンを受け、衣装もイタリア国旗をイメージしたカラーで揃えました。

雨音に負けないメンバーの歌声は心に残る一日となりました。

編集後記:

デフリンピアンの明るく、ひたむきな競技の姿に、思わず手をキラキラ、腕を伸ばし「声援」を送り

